

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.46 - 2012年9月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



親

愛なるサレジオの宣教師、サレジオ・ミッションの友人の皆さん!

信仰年(2012年10月11日-2013年11月24日)に入るということは、私たちにとってどのような意味があるのでしょうか? 私にとっては、恵みの年、信仰の賜物に感謝し、信仰を分かち合うためのすばらしい機会です。

2012年の新しい宣教師たちの中で、3人のことが忘れられません。サムエルは、アフリカの伝統的な宗教を信仰して成長しましたが、18歳で洗礼を受けました。デイビッドは、ヒンズー教の家庭の出身。そしてウクライナ出身のタラスは、中学生のときに一家全員でカトリックに改宗しました。彼らは皆、一生をかけて神という尊い贈りものを分かち合うため、聖パウロのように出かけて行きました。イエスとの出会いは私たちの心を満たします。私たちは、イエスのことを語らずにはいられません! 小さなこと、仏教やヒンズー教、イスラム教徒の友人、あるいは宗教を持たない友だちのために祈りを捧げる。オラトリオに誘う。イエスのたとえ話を語って聞かせる。こういったことは簡単で、可能です。

サレジオ家族の皆が信仰の賜物を分かち合う方法がわかるように、皆で祈りましょう。特に、イエス・キリストに出会ったことのない子どもや若者と、どのように分かち合えばいいか、わかるように。宣教のロザリオは、このロザリオの年に、キリストを知らない人々により大きく心を開いて生きるため、祈ることを助けてくれるでしょう!

Václav Černý

宣教師顧問
ヴァツラフ・クレメンテ神父

第一次福音宣教と信仰年のための 宣教のロザリオ

福

音宣教省長官フェルナンド・フィローニ枢機卿はインタビューで、キリストをまだ知らない人々に福音を告げる第一次福音宣教の視点から信仰年を祝うよう招いています。実際、この6年の間、宣教部門はキリストを告げる第一次福音宣教研修会を各地で開いています(2010年11月4-10日、ヨーロッパで、2011年8月7-11日、南アジアで、2011年8月14-18日、東アジアで、2011年8月21-25日、オセアニアで、2012年7月30日-8月4日、イスラム教徒の中で生きるサレジアンのため、2012年11月5-9日、アフリカで、2013年、アメリカで)。

研修を通して浮かび上がってきたのは、第一次福音宣教は、イエスの物語を簡潔に、喜びにあふれて、人の心をとらえるような仕方です。それはキリストを知らない人、洗礼は受けていてもキリスト教信仰の実践を棄てた人、文化・社会におけるキリスト教を生きている人、入信の秘跡のとき、あるいは大衆信心などの折にだけ信仰を実践する人、信仰を習慣として生きているけれども自分を救ってくださった方としてキリストに出会っていない人などに向けられています。

第一次福音宣教は、福音化の歩みの始まりに過ぎません。時間的に最初に行わなければならないものですが、引き伸ばされることはありません。その目的は、(対話する相手のうちに)イエス・キリストへの関心を呼び起こすことだからです。その関心は、イエスへの最初の信仰、あるいは信仰の再生、そしてイエスについての知識を深めたいという望みへとつながります。第一次福音宣教は必然的に、福音化の次の道、求道の道へと導きます。

福音の第一次宣教の最初の形は、すべてのキリスト者の生きたあかし、サレジオ会員、サレジオ会共同体、キリスト者共同体全体による生きたあかしです。このあかしは、対話する相手にとり、常に招きであり、挑戦です。実証的な問いに、意識的に、より個人的に、より深く答えを求めるようにとの招き、挑戦です。

フェルナンド・フィローニ枢機卿は、信仰年はまず信仰のために祈る、すなわちこの賜物を主に願う年でなければならない、と指摘しています。それをしなければ、私たちのすべての取り組みは意義を失います。そのため、宣教のロザリオを広めることが決定されました(5大陸のため、1連ずつ5色に色分け。白はヨーロッパ、赤はアメリカ、黄色はアジア、青はオセアニア、緑はアフリカ)。こうしてロザリオを手取るすべての人が、すべての大陸に福音が告げられるよう、主の御母に祈ることができます。





主の呼びかけにいつも応える生き方としての 私の宣教師召命

子どものころ、私はマドリッドの聖ドメニコ・サヴィオ・サレジオ・オラトリオに通うようになりました。だいたいから、私はサレジオ中学の生徒となり、宣教グループに加わりました。私たちはJuventud Misionera誌の記事を読んでいて、どうしてそうなったのかははっきりわかりませんが、宣教師召命の種が私の内に根を下ろしはじめたようでした。……司祭になりたいという望みが少しずつふくらんでいき、小神学校に入る

という考えも芽生えてきました。それは私にとって、ドン・ボスコを発見し、ドン・ボスコの生き方と宣教について熱中する機会でした。

修練に入る日がやって来ました。サレジオ会員宣教師になるという考えは日増しに固められていきます。実地課程の2年目、1974年から1975年にかけて、バタ(赤道ギネア)に行く機会がありました。人間的にはきつい体験でしたが、召命の面から、また霊的には豊かな体験でした。私の召命ははっきりしました。宣教師になることでした。何年間もの神学の勉強の後、司祭叙階の時が来ました。叙階のテーマを選ぶとき、マルコ16・15の言葉が自然と浮かびました。「全世界に行き、造られたすべてのものに福音を宣べ伝えなさい。」

1986年、赤道ギネアでの飛行機事故によって、一人の若いサレジオ会員のいのちが失われました。この知らせを、管区長の部屋で聞きました。……知らせがもたらした痛みと共に、必要ならば彼の代わりになりたいという望みが湧き起こりました。

3日後、管区長は、マラボ(赤道ギネア)のエラ・ングエマ小教区へ行く必要があるかもしれないけれど、受け入れてくれるかと私にたずねました。夏になり、オベディエンツァは正式に決まりました。しかし、働く場所が変わります。……マラボのバナバ教区神学院です。5年間、とても幸せに働きました。……そして、マラボに私を連れて来たオベディエンツァは、グアダハララの志願院・修練準備期の養成支部へと私を送りました。その後、セビリヤのサンルカール・ラ・マヨールの修練院へと異動になりました。

1999年、ベッキ神父からの手紙はキューバへ派遣される機会を提案するものでした。2か月たないうちに新しい手紙が来ました。先の手紙にもかかわらず、総長はもう一つの提案をし、私が受け入れてくれるならうれしいとのことでした。……実は、修練長を引き受けるようにとの要請でした。自分の召命を、呼びかけにいつも応えることとして理解したいと私は望んでいたもので、自分にとって辛いオベディエンツァも原則としてすぐに受け入れました。……そしていつものように、主は、初めは重荷のように見えるものを、最終的には恵みに変えてくださいます。このオベディエンツァを受け、私は自分の出身管区であるマドリッドに戻りました。しかし、モロッコにサレジオ会員が必要と聞き、名乗り出ました。……私の申し出を受けた総長は、10年前に提案されたキューバへ行かないかと私に提案しました。……こうして私は2年前からキューバにいます。ここで私は、これまでいつもそうしようと努力してきたように、呼びかけに応える開かれた心をもって自分の召命を生きるように努めています。……ここで受けたすばらしい歓迎に、私は到着したときからわが家にいるように感じています！

スペイン出身、キューバの宣教師 **サンチアゴ・マルティネス・マルティン神父**

2012年世界宣教の日のメッセージ

<http://www.cbcj.catholic.jp/jpn/doc/mssn/12mssn.htm>

福音を伝える使命とは、……部分教会のあらゆる活動と部門、つまりその全存在と働きのすべてがこの使命とかかわらなければなりません。……現代においても、諸民族への宣教は、あらゆる教会の試みにおける不変の展望と枠組みとならなければなりません。なぜなら、教会独自のアイデンティティーは、わたしたちに救いをもたらすためにキリストのうちにご自分を啓示される神の神秘への信仰と、キリストが来られるまで世界にキリストをあかしし告げ知らせるという使命によって形づくられるからです。

教皇ベネディクト十六世



2012年新宣教師研修コース <http://tinyurl.com/d3qh8gz>

宣教の十字架の授与 <http://tinyurl.com/brr3nbv>

フェイスブック <http://tinyurl.com/95prnh>



アフリカの青年カテキスタのために

サレジオ会の宣教の意向

アフリカの青年カテキスタたちが信仰において成長を続けますように。

シノドス後の使徒的勧告「Africae Munus」の127項で、教皇ベネディクト十六世は次のように促しています。「カテキスタの皆さん、多くの共同体にとって、皆さんが熱意あふれる弟子の目に見える最初の姿、キリスト者の生き方の模範であることを忘れないでください。家庭生活は大いに尊敬されなければならないこと、キリスト者としての子どもの養育は、周りの人々との関係において正直で信頼できる人間として社会の中で生きよう、若者を育成することだということを、皆さんの模範によって告げ知らせよう、勧めます。」町や村の多くのカテキスタは若く、たいてい結婚していますが、そのミッションのなかで大きな困難や試練に直面します。サレジオ会員が彼らと共に歩み、彼らがよい養成を受け、信仰と地方教会への奉仕において成長しますように。

